

関連イベント

講演会

「江戸の出版・文芸のチカラ」 令和7年8月2日^① 13:30～16:30(開場12:30)

企画展に合わせて、江戸時代中後期の出版文化の発展の中心をになった蔦屋重三郎と十返舎一九、彼らとそれを取りまく人びとの動向や同時代の駿府の文化について紹介します。

会場: 葵生涯学習センター(アイセル21) 1階ホール (静岡市葵区東草深町)
対象: どなたでも200人
講師: 小二田 誠二さん(静岡大学人文社会科学部教授) 大石 学(静岡市歴史博物館長)
申込: 7月 5日(土)10:00～ 静岡市歴史博物館ホームページ申込フォームで先行受付
7月11日(金)10:00～ 静岡市歴史博物館(054-204-1005)で電話受付(申込順)
共催: 静岡市葵生涯学習センター・徳川みらい学会



参加無料

「わかりやすい歴史・地域のおはなし」

会場: 1階市民活動スペース

「花開いた出版文化 蔦重の生きた時代の駿府」

令和7年7月6日^② 13:30～14:30

講師: 当館学芸員

「描かれた東海道」

令和7年7月21日^③ 13:30～15:00

講師: 大石 沙織さん(静岡市美術館学芸員)

「浮世絵ってなんだろう ～木版印刷物としての仕掛と工夫～」

令和7年8月11日^④ 13:30～15:00

講師: 山口 拓海さん(静岡市東海道広重美術館学芸員)

「『東海道中膝栗毛』ってどんなお話？」

令和7年8月23日^⑤ 13:30～14:15

講師: 当館学芸員

「郷土(ふるさと)駿府と十返舎一九」

令和7年8月24日^⑥ 13:30～15:00

講師: 大畑 緑郎さん、小澤 浩さん(駿府十返舎一九研究会)

参加無料

申込不要

学芸員ガイドツアー

参加無料

駿府の“通”を見つける旅

江戸時代中後期における駿府城下町の特徴や文化人たちのゆかりの場所を歩きます。



令和7年7月13日^⑦

①9:30～11:30 ②10:00～12:00

対象: どなたでも各回30人
(小学生以下保護者同伴)

集合: 静岡市歴史博物館 1階講座室
(※現地解散)

申込: 6月15日(日)10:00～
静岡市歴史博物館(054-204-1005)
で電話受付(申込順)

7月5日(土)・6(日)に企画展をご観覧いただいた
各日先着100名様に

博物館オリジナルノベルティプレゼント!

3階展示室入口にて
配布します

歴史博物館への交通アクセス

JRをご利用の場合 「静岡駅」下車、北口から

- 徒歩15分、タクシーで約10分
- しずてつジャストラインバス
「県庁・静岡市役所葵区役所前」下車 徒歩6分

静岡鉄道をご利用の場合

- 「新静岡駅」から徒歩8分

富士山静岡空港をご利用の場合

- 空港からしずてつジャストラインバス
富士山静岡空港静岡線「新静岡」下車 徒歩8分

お車で越しの場合

- 東名静岡ICより約20分 ※隣接及び近隣の有料駐車場をご利用ください。
詳細はホームページをご確認ください。

博物館への道
JR静岡駅から博物館まで
実際に「歩いてみた」
動画はコチラ!!



静岡市歴史博物館
Shizuoka City Museum of History

静岡市葵区追手町4番16号 電話:054-204-1005
ホームページ: <https://scmh.jp> FAX:054-204-7373
指定管理者 公益財団法人静岡市文化振興財団



ミュージアムショップ・カフェ
(1階 無料エリア)
ミュージアムショップでは、企画展図録
やオリジナルグッズ、地元企業とコラボ
した商品等を販売しています。併設の
カフェでは、コーヒーや抹茶シェイクの
ほか、軽食もお楽しみいただけます。

①十偏舎戯作種本 静岡市立中央図書館(木村文庫)所蔵 ②新鑄小判腹 静岡市立中央図書館(木村文庫)所蔵 ③聞風耳学問 静岡市立中央図書館(木村文庫)所蔵



静岡市歴史博物館
Shizuoka City Museum of History

【前期】7/5(土)～7/27(日) 【後期】7/29(火)～8/24(日)
休館日: 7/7(月)、14(月)、22(火)、28(月)、8/4(月)、18(月)

【会場】静岡市歴史博物館 3階 企画展示室

【開館時間】9:00～18:00(展示室入場は閉館30分前まで)

プロローグ

一九と葛重との出会い

江戸時代の中ごろ、江戸幕府の老中をつとめた田沼意次は商業を重視し、江戸の町はこれまでにない活気にあふれました。人びとは娯楽を求め、多くの本が出版されます。その中で、黄表紙などの娯楽本を数多く手掛けた人物が江戸で本屋を営んでいた葛屋重三郎(1750～1797年)でした。駿府出身の作家、十返舎一九(1765～1831年)は、江戸で葛屋重三郎と出会います。



十返舎一九『新撰小判蔵』
静岡市立中央図書館(木村文庫)所蔵

第1章

新たな出版文化の到来を 見抜いた 葛屋重三郎

葛屋重三郎は、それまでの常識を打ち破るような本を次々と出版しました。時代のニーズを鋭く読み解く独特の感性により、打ち出された企画を元に当時の人気作家たちと協力して手がけた本は、瞬く間にベストセラーとなります。その一人が、十返舎一九でした。



葛屋重三郎



恋川春町『吉原大通会』国立国会図書館所蔵

恋川春町 戯作『吉原大通会：3巻』、[岩戸屋源八]、[天明4(1784)]、
国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/9892509> (参照 2025-05-06)

第2章

人びとに愛された人気作家 十返舎一九

駿府で生まれた十返舎一九は、江戸で葛屋重三郎に才能を見出され、作家デビューを果たします。黄表紙や往来物など、66歳(数えでは67歳)で亡くなるまで約500種もの本を手がけました。なかでも30代から書き始めた『東海道中膝栗毛』は、大ベストセラーとなります。



十返舎一九



十返舎一九『東海道中膝栗毛』後編
個人蔵(当館寄託)

※『東海道中膝栗毛』：主人公の弥次さん喜多さんが
江戸から東海道をって伊勢神宮に参拝し、さらに京都と大阪などを巡る旅を題材にした作品。

第3章

駿府に花開く出版文化

江戸で出版された本は、各地の本屋や貸本屋を通じて全国に広がりました。駿府では本屋の採撰亭の主人を中心に、文化人たちが集い、様々な交流が行われます。のちに駿府でも安西の左官、栄寿軒安鶴を主人公とする『安鶴在世記』が出版されました。



栄寿軒安鶴『安鶴在世記』(当館所蔵)

※『安鶴在世記』：駿府の有名な人だった安鶴の自慢話をおもしろおかしくまとめた作品。

駿府編 十返舎一九 ゆかりの地マップ



エピローグ

一九が駿府に残したもの

駿府の貸本屋の一つであった鳴雁堂の貸本目録からは、一九の作品が、駿府の人びとに読み継がれていたことがわかります。駿府の人びとにとって、一九はどんな存在だったのでしょうか。



『鳴雁堂蔵書目録』 静岡県立中央図書館所蔵

※この地図は実際の建物・通り等の所在や名称を一部省略しています。